通巻134号

山と

奉祝

天皇陛下御即位

御挨拶

宮司　宮西修治

畏れ多くも　天皇陛下には、平成三十一年四月三十日を以て皇太子殿下に御位を譲られ、ここに二百年ぶりとなる御譲位が行われ、五月一日を以て　新帝陛下が剣璽を承け継いで践祚、元号も「令和」と改められました。謹んでお慶び申上げます。

御即位に関わる一連の儀式を「御大礼」と称し、その儀式はおよそ

一、「譲位」…皇位を皇太子殿下にお譲りになる儀式。

二、「践祚」…三種の神器のうち剣と玉、また　天皇の御印である御璽、日本国の印である国璽等を継承して皇位につかれる儀式。

三、「即位」…御即位を皇祖天照大御神はじめ御歴代　天皇と皇族、天つ神国つ神八百万の神に御奉告後、国内外に宣明する儀式。

四、「大嘗祭」…即位後初めて行われる新嘗祭。

から成ります。中でも「大嘗祭」は御一代一度の最重儀であり、皇居の東御苑に大嘗宮という古代さながらの宮殿を建て、「悠紀田」「主基田」（「亀卜」といって、海亀の甲羅を焼き、そのヒビの入り具合で東西二地方の斎田を占う。今回は悠紀が栃木県、主基が京都府と決まった）で収穫されたお米を始めとした神饌を　天皇陛下御自ら皇祖天照大御神を始めとした神々にお供えし、また御自身もお召し上がりになる、いわば神人共食の御儀が執り行われます。大嘗祭は古来十一月の第二もしくは第三の卯の日に執り行われる倣いで、今回は第二の卯の日である十一月十四日となり、この大嘗祭を以て即位に関わる一連の儀式が終了します。皇居鎮守社の宮司として、全ての儀式がつつがなく斎行されることを願ってやみません。

今年も六月七日から十七日まで、伝統の山王祭が開催されます。令和という新しい御代の初めての山王祭です。令和は万葉集巻五の序文「時に初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き蘭は珮後の香を薫らす」から引用されており、史上初めての、漢籍によらない国書由来の元号です。令という字には「立派である」という意味があり、「御令嬢」「御令息」のような尊称にも用いられています。

新たなる大御代の、初めての山王祭に足を運ぶ方々の一人でも多くに、令和という美しい元号にふさわしい祭をご覧頂けるよう、職員一同誠心誠意努めてまいります。

そして、この令和という時代が氏子御崇敬の皆様にとって、希望に満ちた、素晴らしい時代になることを心よりご祈念申上げます。

令和元年　山王祭　行事日程

六月

七　日（金）十一時　**末社八坂神社例祭**

八　日（土）十時　**境内茶園並狭山新茶奉納奉告祭**

同　十六時半　**第三十回奉納剣道大会奉告祭**

九　日（日）正午・十三時・十四時　**稚児行列**

十　日（月）十一時　**表千家家元献茶式**

十三日（木）十一時　**摂社祭**

同　十八時　**献灯祭**

十四日（金）十八時　**献灯祭**

十五日（土）十一時　**例祭**

同　十八時　**献灯祭**

十六日（日）十一時　**煎茶礼道日泉流献茶式**

同　十三時　**山王嘉祥祭**

十七日（月）十時　**裏千家家元献茶式**

十三日（木）～十五日（土）　**山王音頭と民踊大会**

特別寄稿

参議院議員
山谷えり子

平成最後となる年明けの武道館で開催された『全日本書初め大会』に三千名の皆様と共に出席し、万葉集の『石ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりにけるかも』（志貴皇子）を席書いたしました。

若葉もまぶしい五月、令和元年の幕開けとなりました。

『令和』の典拠は、万葉集の「梅花の歌三十二首」の序文にある「初春の令月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」の文言から引用されたものということで、大宰府の長官であった大伴旅人が、友人らを招いて、梅花を詠んだ情景が美しく甦ります。自然の中で、しみじみと人々と心を通わせる喜びは、日本の文化として今日まで繋がっていることを感じます。

万葉集は、千二百年あまり前に編纂された我が国最古の歌集で、天皇から防人、農民と幅広い層の人々が詠んだ歌が収められており、豊かな国民文化を象徴しているもので、国民が心ひとつとなって新時代の幕開けをこぞって祝福するに相応しいものと感じております。

六四五年の「大化」以降、二四八番目となる新元号は、日本文化と国柄の素晴らしさを世界に発信するのにふさわしく、総理は談話で〝人々が心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ意味が込められている〟と語られました。

グローバル化が進む中、西暦への移行を求める声が大きくなった時期もありましたが、今回の新元号発表に全国津々浦々、老若男女を問わず歓び沸く光景をみると、元号とともにある日本の歳月の歩みやそれぞれの人生と重ね合わせていく幸せを再認識した出来事でもありました。

書店では万葉集のコーナーが増設され、平成生まれの若者が平成のうちに結婚をと「駆け込み婚」も増えたと聞きます。

『令和』の時代も、平和で穏やかな日常が続くよう祈らずにはいられません。

本年二月の「天皇陛下御在位三十年記念式典」で皇后陛下御作曲の「おもひ子」が演奏されました。

海外へのご公務の際には、小さな宮様方が寂しがられないようにとテープレコーダーに子守唄を吹き込まれたというエピソードにもあるように、皇后陛下は子守歌をとても大切にされています。

「おもひ子」は、大正時代の詩人・宮崎湖処子の詩を若き妃殿下が浩宮さまの枕辺で節をつけて口ずさまれていたのを天皇陛下のおすすめで、子守歌として形を整えられたものとのことです。

慈愛あふれる祈りの唄の美しさに心が震えました。

また、浩宮様ご誕生の際の御歌では、「あづかれる　宝にも似て　あるときは　吾子ながらかひな　畏れつつ抱く」と詠まれていらっしゃいます。

万葉集で有名な山上憶良も、子を思う歌を数多く詠んでいます。

〝銀も金も玉も何せむにまされる宝子にしかめやも〟

いつの時代も子供は宝であり、輝く希望の象徴です。

私は三児の子育て中、数多くの子守歌に励まされた日々がありました。若いお母さんたちにも歌心を大切にし、子守歌の心が広がるよう音楽の教科書に子守歌が載るように提言したり、子守歌を守る活動を皆で取り組んでいます。

世の中が忙しく心にも余裕がなくなってしまったかのような昨今、見えないネットの世界に大人も子供も翻弄され傷ついていくような中だからこそ、父性、母性豊かな令和の時代を創っていきたいものです。

外務省は、令和の英訳を「ビューティフル　ハーモニー」と発表しました。数千年後にも子を思う歌が多くの人々に歌われていますように。

おもひ子

（皇后陛下 御作曲、宮崎湖処子 詩）

いづれの星かわが庭に
落ちてわ子とはなりにけむ
汝が愛らしき面には
天つひかりの輝けり
いかなる書のかけりとも
徴ありともわかねども
汝が顔ばかりいつ見ても
いつまで見ても飽たらず
世のうさゆえに昼となく
夜となくくもる我が胸も
ひかる汝が目に見られては
はれて嬉しくなりぬなり

青梅住吉祭礼の人形と山車

―仲町 静人形の山車―

日本風俗史学会々員
齋藤 慎一

青梅住吉神社祭礼で、比較的古く江戸型の鉾山車を所有したのは、青梅街道筋の五町でした。江戸から十二里の青梅村、その中心で慶長（一六二〇年代）以来二七の六斎市の立つ「市場三町（六丁）」の一町が仲町です。

古雅な顔立ちで、武人系の他の四町の人形の中では、きわだって愁いある涼しげな目元で朱唇の美形の立姿は、能楽の舞の「大左右」という型で、優美に動きある姿です。付属したかつての山車の意匠にある若松・岡・飛鶴から連想して、鎌倉鶴岡八幡宮神前での静の法楽（奉納）の舞と思われます。

洗練された芸能の能楽の動きをうつした人形ですから、衣裳が人形であるために派手やかにすぎたところがあっても基本的に能装束的である点で、一種の落ち着いた品格を印象させることになります。髪は垂髪を背で元結結び、横皺の金の立烏帽子に紫の掛緒。襟は白三枚重ね、小袖は白綸子、袖口は赤と比翼仕立て、表着は白地にこまかい上品な宝相華唐草文金襴の舞衣（長絹）を、黒の三巴紋刺繍の腰帯で着付けます。女性の袴は能では赤い大口袴が通常ですが、これは朱地に大柄な蔓牡丹文の半切袴（模様のある大口袴）です。古い袴は銀襴で黒変していますが、復元模造の袴はプラチナ銀なのか、黒変していません。半切や大口は後腰を張らせる袴で、仲町の古い半切には畳表を入れています。後腰が大きく張るので人形が安定した立姿になるのです。祭礼の日には、保存されている古い半切袴や舞衣（長絹）は会所（人形場）に飾られます。

そして、背に黒漆の串の金幣を背負い、右手に黒骨の金地若松図の中啓（先のひらいた扇）を、左手は袖をつくろい構えます。腰に、黒漆研出鮫に腰帯と同じ三つ巴紋の目貫、金の唐鍔に塵地鞘の豪華な飾り太刀（本来は白拍子などの使用はできない公家の束帯の所用）を、紫の緒（後補）で、鷗尻（鞘の先を高く）に佩かせるので、静御前という女性に一種の男らしさも演出できます。

本来、静のような白拍子という芸能は、男舞であって少年の服装なので、水干（狩衣に菊綴という飾り緒をつける）に、立烏帽子、腰に鞘巻（腰刀）をつけ、緋の長袴姿（「平家物語」など）とありますから、この人形では随分変更しているわけです。

さて、仲町の静人形は栃木県栃木市倭町三丁目が、明治七年（一八七五）、江戸山王権現祭礼町、九番の日本橋伊勢町・本小田原町・瀬戸物町より購入の「嘉永元（一八四八）申年六月吉日」「新造」「松雲斎徳山作」（「静人形御頭入」箱のさし蓋の表裏、底板墨書銘）の静人形と同作と推定されています。倭町の山車、人形共に修理、改造を重ねますが、比較して肯定できる説です。

日本橋三町旧在のその旧態は、文久二年（一八六二）五月、文正堂小林泰次郎版、大判錦絵の歌川芳藤の立版古（組み立て絵）に、また同じく歌川芳藤画の大判三枚続錦絵、慶応四年（一八六八）七月、大貞版の「東都日枝大神祭礼練込之図」に詳しく描かれます。芳藤は、おもちゃ絵の各町山車の組み立て絵をよく描くので、その要所には信ずべきものがあると思います。

これら二枚の錦絵は、山王祭礼九番の、嘉永元年から明治七年までの日本橋三町所有の山車人形の様子を描くと思います。静の立烏帽子狩衣の舞姿、朱の組高欄、高欄四隅の金幣、二層目の連続文の飛雲に飛鶴の胴幕、一層目欄間の稚子頭型、胴幕の若松、框側面の亀甲か蜀紅文の平彫、囃子座の一文字幕の三つ巴紋など主要部分が栃木市倭町の山車と一致します。栃木市倭町の静人形山車付属の平箱（被蓋造）蓋には「九番御祭禮　水引二張（一・二層の二組の幕）　人形衣裳　伊勢町　本小田原町　瀬戸物町」と墨書があるのも貴重です。栃木の明治七年以前移譲（明治七年四月刊「栃木新誌　三号」所収『栃木雑報』御祭日祝辰の景況）まで日本橋に所有されていたことは明らかです。

一方、青梅仲町は、天保一一年（一八四〇）「花火火事」、安政四年

（一八五七）「若狭屋火事」、文久二年（一八六二）「豆腐屋火事」と全町罹災して資料に乏しいのですが、わずかに山車付属の長持に「明治五壬申（一八七二）歳　仲両街」の墨書、また静人形の元来の山車（現青梅大柳町所有）の框飾板（台輪）に所有町の町名「仲両」を角文字で連続文としています。さらに、昭和三年新造の仲町の山車も、框に町名「仲町」を意匠している点、注目すべきです。

一方、江戸の外神田に明治五年代まで仲町があるのですが、一・二・三丁目までであって、両街にあたる二丁ではありません。われらの青梅仲町は、二丁目で仲両町または仲両街と称していましたから、日本橋の伊勢町等三町のものでないとすれば、この山車と人形は青梅仲両町で制作の可能性があると思います。

青梅仲町は、御判（ごはん）町ともいい、青梅村の高札場もあった中心街で、料亭若狭屋、呉服太物の升屋（ますや）、名主・村役人の家もあり、すでに延宝（一七五〇年代）頃の祭礼には江戸の町内と同じく一丁目東境に「住吉大明神」、二丁目は「真須美乃叡（ますみのえ）大神」と大幟が一対ずつ立ちました。遊芸

仲町「静御前」人形。框は輪違い花菱。格狭間には鼓の皮と調べの緒を図案化。
明治五年代、松雲斎徳山作と推定する。二層目の四方幕は、飛鶴と雲が各面で円にまとまる構図で山王祭九番山車のような連続文ではない。

仲町会所（人形場）に飾られた「静御前」人形の古い半切袴と舞衣（長絹）

仲町「静御前」鉾山車（合成イメージ）

趣味も盛んで、俗に「仲町長唄」などといいました。芸事の祖という静御前の人形にふさわしい富裕な町内でした。

人形の容貌も、大人びた美しさ、能楽の装束の応用、舞の型の正確な造型など、松雲斎米久保徳山の嘉永を下った年代の作で、仲町の山車付属長持の墨書から明治五年の頃の制作ではないでしょうか。

頭や手足の胡粉、彩色は当初のまま、古装束は保存、忠実な復原模造品で正確な着付など、町内の人々の文化財保護への努力に敬服します。

畏友の山瀬一男氏よりの学恩、また八王子の山下泰司氏、青梅の同学の友、小林一博氏、村野公一氏の資料提供に感謝します。なお、整稿、編集は「青梅市の山車」の好著もある久保田幸司氏の奔走です。

おもちゃ絵の芳藤描く山王祭の悼尾の名作、三枚続「東都日枝大神祭禮練込之図」等についても後日詳説する折を得たく思っています。

「東都日枝大神祭礼練込之図（部分）」歌川芳藤画（慶応4年7月改印）　山王祭九番静人形山車

栃木市倭町三丁目の静人形の山車現状

山王祭九番「伊勢町・本小田原町・瀬戸物町」の静人形鉾山車の立版古（組み立て絵）　歌川芳藤画（文久2年5月改印）

奉祝山王祭

順不同敬称略

山の茶屋 遠藤恒夫	山王熱供給㈱ 代表取締役社長 津曲荒太 2口	永田町・霞ヶ関 平河町	㈶答礼会 理事長代行 理事長代行 石川英 今出川英大 3口	マネックス証券㈱ 松本大 3口	㈱ぬ利彦 代表取締役社長 中澤彦七 3口	㈱ザ・キャピトルホテル東急 総支配人 末吉孝弘	日枝神社四葉会	㈱食文化総研 レストラン黒澤グループ 代表取締役社長 丸總子	㈱アルファビデオ 代表取締役 青山裕生	山王むらさき会	㈱植むらフーズ 代表取締役 十文字弘美
㈱ジョー・コーポレーション 代表取締役 堀切健司	㈱ジャパングレーライン 代表取締役 眞下慶一郎	㈱桜井食品 代表取締役社長 桜井勉	㈱ニュー・オータニ 代表取締役社長 大谷和彦	麹町・紀尾井町	㈱泉屋東京店 代表取締役 泉由紀子	永田町 天竹 荻原秀夫	弁護士法人一番町綜合法律事務所 代表社員 神﨑浩昭	(有)ナリタ美容室 代表取締役 成田弘子	麹町ビルディング㈱ 代表取締役 勝山勝	番町・九段・四谷	㈱伊勢半本店 代表取締役社長 澤田晴子
東宝㈱ 名誉会長 松岡功	大手町・丸の内 内幸町・有楽町	㈱千修 代表取締役社長 下谷友康	㈱朝日写真ニュース社 代表取締役社長 阪田裕一	表千家 不審菴 家元 千宗左	(資)清水隆商店 代表社員 清水昭治	(有)ファマシー池田 池田新二	三番町 田中康博	㈱帝国ホテル 取締役社長 定保英弥	泉吉㈱ 代表取締役 岸本昌子	㈱東京會舘 取締役社長 渡辺訓章	TANAKAホールディングス㈱ 代表取締役社長 執行役員 田苗明
中西瀝青ホールディングス㈱ 代表取締役 森口友美子	木村實業㈱ 代表取締役 木村平右衛門	川崎定徳㈱ 代表取締役 川崎眞次郎	日本橋吉野鮨本店 吉野正敏	東京建物㈱ 代表取締役 社長執行役員 野村均	㈱高島屋 常務取締役 亀岡恒方	㈱榮太樓總本舗 代表取締役社長 細田眞	㈱ゆかり 社長 野永喜一郎	八重洲・日本橋	北見不動産㈲ 会長 北見芳夫	八丁堀 茅場町・兜町	金子架設工業㈱ 代表取締役 青木茂
清水建設㈱ 取締役社長 井上和幸	㈱トミタ 代表取締役会長 冨田正一	㈱大澤ローヤル 代表取締役 大澤忠政	京橋	㈱藤井工業 代表取締役 藤井勝彦	㈱プレナス 代表取締役社長 塩井辰男	エスビー食品㈱ 代表取締役社長 小形博行	いちよし証券㈱ 代表執行役社長 小林稔	(資)北見商店 代表社員 北見まさ子			小宮山印刷㈱ 代表取締役社長 小宮山貴史

奉祝山王祭

順不同敬称略

新銀橋座

(株)ギンザのサエグサ 会長 三枝 進

(株)小松ストアー 代表取締役 小坂 敬

(株)木村商店 代表取締役 木村暖子

(株)小林傳次郎中央地所部 代表取締役 小林弘忠 代表取締役 小林久子

やす幸 石原 壽 松井俊樹

(株)銀座ナイン 代表取締役社長 柴田孝則

正金商事(株) 代表取締役 蛯原宗久

(株)新橋玉木屋 代表取締役 田巻章子

銀座越後屋 八代目 永井甚右衛門

(株)銀座木村家 代表取締役 木村美貴子

(株)ホッタ 取締役社長 堀田峰明

銀座吉田(株) 代表取締役 吉田民雄

崇敬者（氏子外）

富士産業(株) 代表取締役 中村勝彦

きねや足袋(株) 代表取締役 中澤貴之

(株)錦屋マリエマリエ 取締役社長 勝田久美子

京橋大根河岸会 会長 鈴木敏行

(株)フェム 代表取締役 藤田誠

(株)ミロク情報サービス 代表取締役社長 是枝周樹

(株)ホットアート 代表取締役 望月秀峻

鈴木徽章工芸(株) 取締役会長 鈴木健之

(株)ナンシン 代表取締役 齋藤信房

(株)アーバネットコーポレーション 代表取締役社長 服部信治

(株)キョウエイアドインターナショナル 代表取締役社長 廣瀬勝巳

(株)糟谷 相談役 糟谷孝男

(株)井筒装束店 代表取締役 佐織鉄郎

(株)髙田装束店 代表取締役 加藤充則

(株)大槻装束店 代表取締役 大槻奈津子

佐竹昭二

(株)桜井グラフィックシステムズ 代表取締役会長 桜井美国

(株)兵左衛門 代表取締役会長 浦谷兵剛

(株)なだ万 代表取締役 野原優

裏千家 今日庵 千玄室 宗室

(株)フォーシーズ 代表取締役会長兼CEO 浅野秀則

安全自動車(株) 代表取締役 中谷宗平

(株)丸井スズキ 代表取締役 鈴木貴博

廣田特許事務所 代表 廣田雅紀

有楽商事(株) 代表取締役 平沼顕司

佐藤産業(株) 会長 佐藤太美雄

(株)信英堂 代表取締役 桜井俊一

朝日総業(株) 代表取締役 池本なぎさ

(株)CMC 代表取締役 髙橋悦郎

(株)木村屋總本店 代表取締役社長 木村光伯

酒は、これを神々に献り、その撤下（おさがり）をいただく事によって、うつうつとした気持ちが晴れやかになる百薬の長です。当日枝神社の御祭神大山咋神は、古来、酒を司らせ給う東都の酒神と厚く信仰せられるところであります。

平成三十一年正月献酒醸造元芳名（順不同・敬称略）

新政酒造(株)　菊正宗酒造(株)　近藤酒造(株)
醉仙酒造(株)　月桂冠(株)東京支店　土田酒造(株)
秋田銘醸(株)　白鶴酒造(株)東京支社　大信州酒造(株)
沢の鶴(株)東京支店　中国醸造(株)　七笑酒造(株)
盛田(株)　吉乃川(株)東京支店　山梨銘醸(株)
大関(株)首都圏支社　太田酒造(株)　土井酒造場
賀茂鶴酒造(株)　黄桜(株)　本田商店
ヤマサ醤油(株)東京支店　ちくま食品　都錦酒造(株)
(株)三宅本店　(株)山本本家　(株)醉心山根本店
キリンビール(株)　江井ヶ嶋酒造(株)　今田酒造本店
濱田酒造(株)　桃川(株)東京支店　醉鯨酒造(株)
小西酒造(株)東京支社　豊島屋酒造(株)　土佐鶴酒造(株)
宝酒造(株)　石川酒造(株)　千代の園酒造(株)
雲海酒造(株)東京支店　鍋店(株)　福光屋
薩摩酒造(株)　木戸泉酒造(株)　桝田酒造店
霧島酒造(株)　稲花酒造(株)　栃倉酒造(株)
日本盛(株)東京支店　(株)家久長本店　(株)丸山酒造場
辰馬本家酒造(株)　天鷹酒造(株)　(株)北雪酒造
ヒガシマル醤油(株)　(株)小山本家酒造　奥の松酒造(株)
白鷹(株)東京支店　武蔵鶴酒造(株)　佐浦
櫻正宗(株)東京支店　(株)矢尾本店酒つくりの森　和田酒造(資)
キンシ正宗(株)　高井(株)　(株)六歌仙

第五十五回 奉納書初展

正月恒例の書初展に於いて、奉納作品を一月十五日迄境内に展示しました。一月六日午後二時より社殿にて奉告祭が執り行われ、引き続き参集殿にて山王奉書会を開催しました。栄えある宮司賞には麹町女子中学校の上原珠里さんに、氏子宇崇敬会長賞には番町小学校の水谷叡美さんが選ばれました。

山王奉書会
（参集殿にて）

第五十五回　山王奉書会
表彰者芳名〈順不同〉

宮司賞
麹町学園女子中学校　上原　珠里　様

氏子崇敬会長賞
番町小学校　水谷　叡美　様

秀　作
港南小学校　森川　彩貴　様
富士見小学校　福間　結菜　様
九段小学校　鈴木　ひな　様
昌平小学校　土屋　慶祐　様
麹町中学校　池田　結子　様
麹町中学校　小野まり子　様
神田一橋中学校　木村奈津子　様
和洋九段女子中学校　鈴木　愛美　様
麹町学園女子中学校　下室　都季　様
九段中等教育学校　永井　夏実　様

宮司賞をいただいて

麹町学園女子中学校　上原　珠里

今回は第五十五回日枝神社奉納書初展において宮司賞をいただけてとても嬉しく思います。ありがとうございます。

私が書道を習い始めたのは六歳の時で、友だちに誘われて始めました。六歳の時は、まだひらがなも上手にかけなかったので、最初に筆で文字を書くときにはとても苦戦しました。初めて展覧会に作品を出したのも六歳の時でした。たくさんの賞があって一番いい賞をとりたいと思いたくさん練習していました。しかし、今まで書道を習っていてどんどん課題が難しくなっていき上手に書けないこともあり何回も辞めたいと思ったことがありました。それでも、書道を続けることができているのは今まで支えて下さった先生方や家族のおかげだと思います。とても感謝しています。

今回書初めで書いた作品「吾心在太古」という字は、「私の心は太古の民と同様に自然で素朴である」という意味です。この字を書くときに苦戦したところは、字の画数が少ないので、小さく書いてしまうと弱弱しくなってしまうところです。私はあまり大きく書くことが得意ではないので、太く大きく書くことを心がけました。

私は今年修学旅行でアイルランドに行きました。その時にアイルランドの方々の名前を筆で書いてプレゼントしました。書道を通して国際交流ができたので、今後も書道を生かしたいと思いました。

今回、宮司賞という良い賞をいただくことができて、また書道に精進しようと思うことができました。どうもありがとうございました。

氏子崇敬会長賞をいただいて

番町小学校三年　水谷　叡美

今回は、氏子崇敬会長賞にえらんでいただきありがとうございます。はじめてこのようなすてきな賞をいただいたのでうれしい気持ちでいっぱいです。

私は一年生の時に書道教室に入り、二年生の時に毛筆を始めました。しかし、ダルマ筆は使ったことがなく、日枝神社の代表としてえらばれ、放課後に書写室で練習をするときに初めてダルマ筆を使って書きました。一番さいしょにダルマ筆で書くととても気持ちがよいと思いました。ダルマ筆は毛の部分が大きいのでのびのびと書くことができるからです。学校以外でも書道教室で時間をかけて練習をしました。学校の先生のアドバイスや書道教室の先生の「大きく、のびのびと、のびて。」という言葉などをむねに書いたこともこのようなけっかにつながったと思います。

練習している時は、まさかこんなすてきな賞をいただけるなんてゆめにも思いませんでした。電話がかかってきて言われた時もゆめを見ているように思えました。一月六日の山王ほう書会で神様に一番近い場で、はい礼させていただき、みな様の前で賞を受けた時に、あらためて私を指どうして下さった先生方に感しゃの気持ちで一杯になりました。玉ぐしほうてんは人生ではじめてのとても大切なけいけんでした。書道はこのようなけいけんもさせてくれるのだな、と思いました。宮司賞をお受けになった中学生のお姉様は、作品もびっくりするほどすばらしく、みな様の前でもどうどうとお言葉をのべられていました。私もいつかあんなお姉様のようになりたいです。

これからも書道を今まで以上に楽しみ、それが、自分のよろこびにかわっていけるように書いていきます。

（原文ママ）

〈第五十五回日枝神社奉納書初展・山王奉書会記念講演〉

日本の伝統芸能
～紙切りにみる伝統文化の継承～

紙切り芸人　三遊亭絵馬 氏

皆様紙切りはご覧になったことはありますか。

紙切りご覧の方はたいてい明治生まれの方が多いんですね。

（会場笑いが起きる）

何もない一枚の紙からたのしい形を作っていきたいと思います。

～寿という漢字を切る～

今紙切り芸人は日本に何人くらいいると思いますか？

八名おります、昔は紙切りというのは男性がやってましたが、今は落語家さんとかも女性が増えました。そしてこういう私たちみたいな「色物」と呼ばれる芸も女性が増えてまいりました。

～鶴亀を切る～

今日はお若い方が多いので、普段どういうとこでやってるかというと、寄席ですとか演芸場はもちろんなんですけれど、最近浅草なんかの料亭、お座敷でですね紙切りを披露することが多くなりました。そうしますとね、お酒が入ったりお料理を食べながら見るので、ワイワイガヤガヤいう中でやってるんですけど、皆さん本当に静かですね。

紙切りは常に喋ったり動いていないといけないんですね。それでお喋り色々とさせていただきますけれども。

～パンダの親子を切る～

次はお題を頂戴して何かお作りしたいと思います。

初夢

初夢ですか、きれいなお題ですね。初夢といえば、私のおばあちゃん曰くこの絵を枕の下に入れて寝るといい初夢が見られたそうです。昔は12月31日になるとこの絵を売りに来る人がいたそうです。

～宝船を切る～

その後「絵馬の中の梅の花」、「観客の似顔絵」を切る。

質問：紙切り芸人になるにはどのようにするのですか？

紙切り芸人になるにはですね、弟子入りという制度がありますね。三年ぐらいはカバン持ちで仕事について行きます。それで一年目はなにも芸は教えません。仕事について行ってお茶を出したり、スケジュールの管理をしたりだとかそういうことから始まります。二年目ぐらいになると、段々と技術を教えていくようになります。それで一番初めは、はさみに慣れるために丸を切ります。それで丸がきれいに切れるようになったら、次に左右対称のものを切ります。蝶や蜻蛉などです。その後に四つ足がきます。横向いた馬とか犬ですがそこで大体は一度挫折します。それで横向きの動物が切れるようになったら、応用がきくようになっています。昔は十二支や歌舞伎十八番とか、日本の四季ですね。四月だったら桜、五月だったら菖蒲、秋だったら紅葉、冬だったら雪合戦とかそういうものを覚えていれば、食いっぱぐれはなかったのですが、今そんなお題は全くでないですね。それこそカレーライスを切ってくれだとか、101匹わんちゃんを切ってくれだとか色んなお題がでます。私が大名人に会って言われたことは、技術ってのは後からついてくるので、若いうちから興味あったものを色々見なさいと。それを頭の中に残しておくと役に立ちますよと言われました。

質問：絵で描くのも難しいのにそれを紙で表現するのには、どのようなことに気を付けているのでしょうか？

そうですね。やはりどちらかといえばはさみよりも絵筆のほうが自分の思い通りになるんですけど、開き直りです。ためらっていたらできないので。

例えば頭で覚えて切るんですかとか、頭で覚えてて形が仕上がるんですかとか色々聞かれるんですけど、そんなこと考えてる余裕ないんですね。とにかく様々な形を練習しておいて、体を動かすことで記憶を呼び覚まして形を作っています。顔なんかの場合はまずは輪郭、長いのか短いのか。それで耳の位置でだいぶ印象が違ってきます。次に真ん中に鼻を置いて、男性と女性で変えていきます。あとはおでこも長いか短いか。それで大体似てきます。絵とは違ってなかなか思うようにはいかないですね。

（編集文責）

御神米づくり　田植祭

令和元年五月五日（日）に恒例の御神米づくり田植祭のため、奉賛青年会加藤秀和副幹事長（耕作長）をはじめ、総勢二十八名で御神田（千葉県香取市）へ出向しました。

晴天の下、恙なく祭典を執行した後に全員で田植え奉仕を致しました。

抜穂祭（稲刈り）は八月下旬頃を予定しております。

寄稿

文久二年山王祭附祭（つけまつり）の正月節供錦絵（下）

付：同年麻疹祓い

武蔵大学　教授　福原敏男

文久二年（一八六二）六月十五日の山王祭は、氏子町方より三組の附祭が参加し、新乗物町と新材木町は合同で三節供の統一テーマの附祭を出し、歌川芳艶はこの三節供を各三枚続の錦絵に描いている。

本誌前号における、五・九月節供（以下、五月・九月）の錦絵タイトルは「新材木町附祭礼」であり、これらは同町が出したことを指摘した。また、正月節供（以下、正月）の練物「若菜摘みの学（まね）び」の錦絵「新乗物町附祭礼」（神田神社蔵）を初紹介した。この正月は新乗物町が出したとし、この三枚続左の囃子図は、五月の地走踊りにおいて、富本連中が担当した囃子図が間違えて伝来したものであり、正月錦絵の三枚揃った作品は現在、確認されていないことを述べた。

一方、この三種とは異なる、歌川芳女（朝櫻楼芳女）画、版元品川屋久助、「戌六改」（同年六月）改印の三枚続「五節句の内　三節の見立　新材木町　新乗物町」の錦絵が伝来し、正月のみが描かれ、以下の同版の四点が確認されている。国立音楽大学附属図書館竹内道敬文庫蔵は、『竹内道敬文庫錦絵図録目録』（国立音楽大学編集・発行、二〇一七年）や、『最後の天下祭―文久二年の山王祭―』（國學院大學博物館・福原、同館発行、二〇一八年）に掲載され、前者には文字も翻刻され、正月の唄方・囃子方である。

また、個人蔵が『国芳イズム―歌川国芳とその系脈』（練馬区立美術館編集・発行、二〇一六年）に掲載され、神田神社にも二種が所蔵され、一種には墨で補筆されている。

芳女は国芳の次女、芳艶も国芳の弟子であり、国芳自身山王祭附祭に参加し、描いていたほど、父子や一門は同附祭に淫しており、国芳没後、娘と弟子は同錦絵を描いたのだが、その両タイトルの町が、なぜ異なるのか。

同祭の絵本番付「山王御祭礼番附」や、東京都立中央図書館蔵「文久二年六月十五日山王御祭禮番付并附祭藝人練子名前帳」では両町合同と記され、前者巻末唄本の正月節供の長唄「若菜摘吾妻雛形」も、両町合同の記載である。

筆者は、三節供の附祭自体は両町合同によるものと、前号の考えを改める。しかし錦絵に関しては、芳女錦絵の方は両町合同で依頼し、芳艶錦絵は新乗物町が正月を、新材木町が五・九月を、別々に依頼した可能性が高いであろう。

本稿後半は同年の麻疹流行に対する、対抗手段の山車や芸能などについて述べる。

山王祭の六月以降、江戸では炎旱が続いて麻疹が流行り、七月半ばに蔓延して八月まで続き、多くの死者を出しており、『藤岡屋日記』には「コレラ獣」が描かれている。斎藤月岑の『武江年表』によると、八月半ばより、町々の木戸に斎竹を立て、軒に奉燈提灯を飾り、神輿や獅子頭を渡し、神楽所（神酒所）を設えて神を勇め、「この禍を攘」った。臨時祭は次第に大規模となり、大きな車楽（山車）を曳き渡し、伎踊（おどり）や練物を催して街頭を渡したという（今井金吾校訂『定本　武江年表　下』筑摩書房、二〇〇四年）。

月岑の日記八月十五日条によると、町々は悪気を攘え終えるまで、山車を出し、神楽所等を拝し続けた、とある（東京大学史料編纂所編『斎藤月岑日記』7、岩波書店、二〇〇九年）。

以下、同日記により、如何なる対処＝祓いが行われたのか、見てみる。

（以下の引用文は筆者が現代文に直し書体をかえた）

先ず、例年夏越に参拝する習慣のない月岑は、六月晦日に神田明神へ「名越」の祓いに行く。

七月七日、四軒町稲荷の神輿が出され、新銀町辺りでも他の町より大きな神輿を借り、通町辺りまで渡御をした。

八月四日（以下、八月）、お祓いに出るとして、挿絵が載る。

麻疹のお祓い

（『斎藤月岑日記』文久2年8月4日条より転載）

阿多福風（ウィルス感染による流行性耳下腺炎）に罹り、下ぶくれとなった面相の仮面をつけた大人や子どもであろう。扇の風で疫病を祓い送ろうとしているようである。

十四日夜、月岑宅近辺では獅子頭を渡して深更に及び、軒提灯や忌竹等も出され、翌十五日夜、町々は獅子頭を渡した。

十七日、多町三丁目は武蔵野の山車を出し、十九日、三河町四丁目は加藤清正の山車を出して廻る。

二十日、雉子町は源為朝の山車を出し、今日と明日曳き、二十一日、三河町二丁目は幣の山車を出す。

二十二日、佐柄木町は武蔵野の山車を出し、二十七日、紺屋町より踊りを出す。

二十八日、紺屋町と三河町三丁目代地は劍先烏帽子の山車を出し、雉子町へも廻り、三河町一丁目は猿田彦の山車を廻す。

二十九日、茅場町に猿の山車が出され、晦日、冨山町辺りでも山車が出される。

閏八月二日（以下、閏八月）、山谷熱田社にて祭列提灯や山車が出、神楽所等が仮設され、四日、八丁堀古着屋わら河岸より、山車・踊台等が出される。

六日、芝神明（飯倉神明宮）氏子により臨時祭が催され、同社門前で山車・万度や女鉄棒引等が出、烏森稲荷社氏子も初午の山車を出すなど、この近辺は大賑わいとなる。

九月十四日の神田祭の宵宮に際し、同年は蔭祭にもかかわらず、竪大工町の棟上、多町一丁目の頼光、新銀町の頼朝、横大工町の菊角力、新石町一丁目の石台、三河町四丁目の素盞嗚尊、蝋燭町・関口町合同の為朝、皆川町の日の出の山車が出され、外神田では山車一本と踊台二台が出る。

月岑は神田明神氏子数ヵ町の名主であるので、右の記載であるが、山王権現氏子町でも同様であったものと推測される。

庚申祭

日枝神社の末社として猿田彦神社があります。御祭神猿田彦大神様は、天孫降臨に際し瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）を御先導申上げた御事績により「道案内の神」として信仰されています。

私たちが人生の岐路において、いずれの道を進むべきか思案にくれるとき、その行路の別れ道（岐・ちまた）にあって、御神徳を発揮されます。

この猿田彦大神様由縁の祭日を「庚申の日」と言い、六十日に一度巡ってきます。

当社ではこの庚申の日の午前九時に「庚申祭」を執り行っております。御参列御希望の方は当日の午前八時五十分までに猿田彦神社前にお越し下さい。

また、同日の午前十時半・正午には各回二十名様限定で道開き祈願を行っております。どうぞ御参列の上、猿田彦大神様の御神徳をお受けください。

道開き祈願は予約にて承っております。予約状況についてはお電話にてお問い合わせください。

令和元年庚申祭並びに特別祈祷道開き祈願の日程

・七月二十二日（月）
・九月二十日（金）
・十一月十九日（火）

山王祭　祭事のご紹介

狭山新茶奉納奉告祭

六月八日午前十時

狭山茶は「静岡茶」「宇治茶」と並ぶ日本三大茶とされており、古くから「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でとどめさす」と茶摘みで謳われています。

狭山茶の摘採は二番茶までのため深い味わいをもっており、仕上げの「狭山火入」と称する古来の火入れを行い甘く濃厚な「味の狭山」として親しまれています。

「狭山茶」の起源は中世の文献に登場する「河越茶」や「慈光茶」など、当時の有力寺院で生産されたとされる茶から始まり、室町時代には京都や奈良の茶園に次ぐ地方茶産地として大和・伊賀・伊勢・駿河などと並ぶ銘園の一つに数えられます。

「狭山新茶奉納奉告祭」では狭山市茶業協会から奉納された狭山新茶とともに当社の境内で採れた茶葉にて製茶されたお茶を神前にお供えします。

また、祭礼期間中は境内に於いて奉納された新茶の振る舞いをしております。是非「味の狭山」をご賞味ください。

山王祭事暦

緑陰朝詣りとラジオ体操の集い
七月二十日(土)～八月三十一日(土)

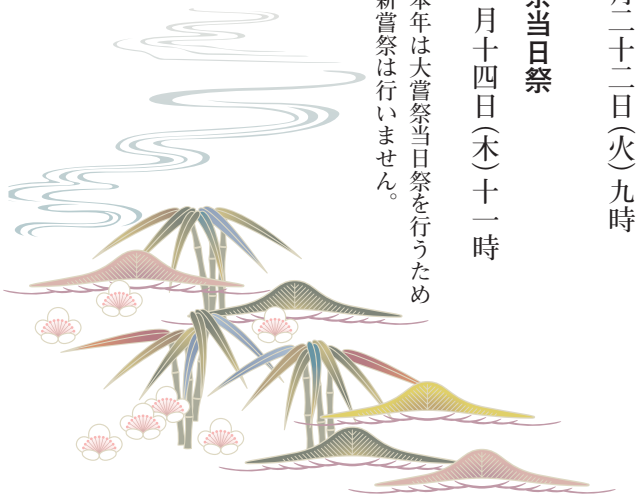
箸感謝祭
八月四日(土)十時半

敬老祭
九月十六日(月)十四時

山王祖霊祭
九月二十日(金)十一時

即位礼当日祭
十月二十二日(火)九時

大嘗祭当日祭
十一月十四日(木)十一時
本年は大嘗祭当日祭を行うため新嘗祭は行いません。



予告

中秋管絃祭（第五十二回）
九月十三日（金）十八時
中秋のひととき、日枝神社で行われる古式ゆかしい伝統芸能「雅楽」を心ゆくまでご鑑賞下さい。

管　絃　太食調音取　合歓塩
朗詠「嘉辰」　抜頭

神楽舞　四方拝　浦安の舞　日枝の舞

舞　楽　小野雅楽会奉仕

山王台通信

新入職員紹介

【出　仕】杉本磨彩気　東京都出身　國學院大學神道文化学部卒
【巫　女】後藤　莉緒　千葉県出身　日本児童教育専門学校卒
【巫　女】荒張　唯香　茨城県出身　東京ウエディング&ブライダル専門学校卒
【巫　女】大川恵莉夏　東京都出身　都立狛江高等学校卒
【巫　女】佐藤　凜　東京都出身　都立園芸高等学校卒
【実習生】若森　穂香　岐阜県出身　國學院大學神道文化学部在学中
【実習生】林　千愛　岡山県出身　國學院大學別科神道専修在学中
【録　事】武藤　有紀
【嘱　託】伊久　穂乃華
【嘱　託】島田　喜弘
【嘱　託】公文　彦一

平成三十一年四月一日付

〈通巻百三十四号〉
発行　令和元年六月一日
編集　日枝神社社務所
東京都千代田区永田町二丁目十番五号
（郵便番号　一〇〇－〇〇一四）
TEL　〇三－三五八一－二四七二（代表）
FAX　〇三－三五八一－二〇七七
http://www.hiejinja.net/

日枝神社 山王祭公式アプリ

無 料

ホームページ・Twitter・Facebookでも情報を公開しています。
QR コードもしくは URL からご覧ください。

iOS端末 android 端末 対応

山王祭公式ホームページ
http://www.tenkamatsuri.jp/

山王祭 公式 Twitter
https://twitter.com/sannoumatsuri

日枝神社 公式 Facebook ページ
www.facebook.com/hiejinja/

令和元年

日枝神社 七五三(なごみ)プラン 受付中

日枝あかさかでは御祈祷・お祝い着レンタル・着付け&ヘアーセット・スタジオでの写真撮影、日枝あかさか内つきじ植むらでのお食事がセットになったお得なプランをご用意しております。

プラン内料金 **39,800円**

展示会開催日程 (12:00 ～ 17:00)

6 月22日(土)・23日(日)
7 月 7 日(日)・13日(土)・28日(日)
8 月10日(土)・25日(日)・31日(土)
9 月 1 日(日)・ 7 日(土)・21日(土)
10月 5 日(土)・ 6 日(日)・12日(土)
11月 9 日(土)・24日(日)

9月・10月全日/11月の平日限定/12月は15日(日)まで

受付・お問合わせは

日枝(ひえ)あかさか **03-3502-2205**